

- 1 報告地区 : 釧路  
2 事例報告学校名 : 弟子屈町立弟子屈小学校  
3 報告者職・氏名 : 校長 中原 英雄  
4 キーワード : キャリア教育の推進 ～校種間・地域を『つなぐ』～
- 

## 1 はじめに

本校は弟子屈町の中心部に位置し、全校児童218名、学級数11学級(特別支援5学級を含む)の学校である。「学校・家庭・地域社会が連携し、ふるさとを創る人を育む」が本町教育の目指す姿であり、幼保・小・中・高、そして地域が「つながる」ことを意識して教育実践を推進している。

## 2 夢や目標を実現する力を育てるキャリア教育の推進

○学校経営方針・重点への位置付け

「キャリア教育の全体計画」に基づく指導の充実

- ・「特別の教科 道徳」…よりよい生き方を考える姿勢や態度の育成
- ・「社会科」「総合の時間」…故郷のよさに触れ、故郷を大切にする心の育成
- ・「キャリアノート」を活用した自己の成長の意識化(特活や道徳科で)

◆地域の特色ある教育資源(自然・産業・歴史・文化・人)を活用し、ふるさと弟子屈に誇りや愛着をもつ、ふるさと教育や体験活動の充実

◆教科の学習の学びと、「実生活や職業」とのつながり(関連)の意識化

◆夢や目標など憧れる自己イメージの形成

◆「なりたい自分」から「なれる自分」に向かって努力する態度の育成

## 3 校種間を「つなぐ」キャリア教育の取組

### (1) 小中高一貫ふるさとキャリア教育推進事業

#### ◇「フラワータッチ事業」

・幼児から高校生までが一緒に観光のまち弟子屈町の花壇整備活動に取り組む中で、おもてなしの心やふるさとを愛する心を培うとともに、活動を通して上級学年のリーダーシップや思いやりの気持ち、下学年のフォロワーシップや感謝、憧れの気持ちを育てる。また、幼保小中高生の活動を通して町づくりの意識高揚を図ることを目的として取り組んでいる。



#### ◇「わくわく登校デー」

・小学生が登校から下校まで丸1日中学校で生活する。中学校生活への期待や意欲をもち、小中学校間の円滑な接続を図るとともに、校種を越えた児童生徒理解、教職員の意識改革・資質向上を図ることを目的として取り組んでいる。同様に中学校では中学生が丸1日弟子屈高校で学習する「わくわく弟高デー」があり、中高間の連携を深めている。



## (2) 玉川大学連携「弟子屈町英語力向上連携事業」

### ◇「イングリッシュ・キャンプ」

- ・町内の小中高生が英語を用いて体験的活動を行う。ALTのネイティブ・イングリッシュに触れながら英語を用いた体験活動や宿泊体験など寝食を共にする活動を通して英語に親しみ、異なる文化への興味や関心を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てることを目的として取り組んでいる。
- ・釧路教育局による「English トライアル」も実施し、中学生が日常生活で使用する英語を用いた英会話に挑戦している。



## 4 地域を「つなぐ」キャリア教育の取組

### (1) 地域に暮らす人、地域で働く人の思いをつなぐ

- 地域で働く方々の苦勞や喜び、工夫や願いを学ぶ
  - ・ 2年生 生活科・・・身近な商店や施設の仕事探検
  - ・ 3年生 総 合・・・酪農・畑作体験
  - ・ 4年生 社会科・・・警察署・消防署の仕事、弟子屈町のまちづくりについて
  - ・ 6年生 社会科・・・町議会見学、租税教室



### (2) 地域の歴史をつなぐ

- 地域の歴史を紡いだ人々の思いや生き方を学ぶ
  - ・ 3年生 社会科・・・受け継がれる行事、昔の道具とくらし 「蔵」見学
  - ・ 5年生 総 合・・・弟子屈町の歴史探索、松浦武四郎の故郷三重県松阪市小野江小との交流

### (3) 地域の魅力をつなぐ

- 地域の自然や産業の特色を学び、ふるさと「弟子屈」に対する愛着と誇りを高め、弟子屈の魅力を発信する
  - ・ 4年生 総 合・・・弟子屈の産業・観光探求 小野江小へ「弟子屈」をPR
  - ・ 6年生 総 合・・・修学旅行（帯広）で弟子屈の魅力発信 →壁新聞でPR

## 5 成果と課題

### (1) 成果

- ・ 上級学年の自覚や思いやり、リーダーシップの育ち、「近い未来のモデル」として見つめる下学年の尊敬や憧れの気持ちが生まれた。
- ・ 教職員の校種を越えた児童生徒理解の深まりと共通する教育課題が認識され、指導の継続性、教科等の専門性、授業改善の方向性へとつながった。
- ・ ふるさと弟子屈への関心、愛着、誇りの気持ちが育つとともに、自分や他者への関心の高まりや、身の回りの環境や仕事への関心・意欲が高まった。

### (2) 課題

- ・ 校種間の教育課程の連携・接続の重要性と指導方法等の共有の大切さを認識しているが、情報交換や協議する時間的余裕を生み出す難しさ。
- ・ 社会に開かれた教育課程の一層の推進が求められる。